2013 年度 NIE フィンランド教育視察旅行報告

日程：２０１３年9月１３日（金）～１８日（水）ヘルシンキ空港集合、解散

参加者：松本前理事長夫妻、立山副理事長、小島副理事長とご子息、安東啓子、早藤和代、

下山幸子、風間文代元 NIE 会員と友人

目的：フィンランドは世界有数の教育先進国。OECD(経済協力開発機構)の学習到達度調査(PISA／義務教育修了者対象１５～１６歳)でも常にトップレベル。母国語を持ちながら、英語を流暢に話す若者が多数いる。そのような状況から現場の学校を訪問し、教育関係者と接することにより、フィンランドの教育に対する取組みや英語教育を理解することが、今回の視察旅行の目的である。

日本人が持つ北欧フィンランドの印象といえば；森と湖の国、清潔な国、デザイン、キシリトールガム、ムーミン、シベリウス、教育水準世界一、高福祉社会などでしょうか。

教育は小学校から大学まで無料。初等中等学校から、長い将来の職業人生のために生徒に心と体の準備をさせることが教育目標になっている。国民の多くが英語と第 2,3 外国語を話せる。

そんな国に興味を持った NIE（国際教育ネットワーク）のメンバー有志が、2013 年 9 月 13 日～19 日視察に向かいました。

フィンランドの面積は日本とほぼ同じ。国土の 4 分の 1 は北極圏内で人口は約 540 万人、首都はヘルシンキ。公用語としてフィンランド語とスウェーデン語…しかし、英語は非常によく通じます！通貨はユーロ。

成田からヘルシンキまでは、9 時間半の飛行。NIE（国際教育ネットワーク）のメンバーは、成田空港や関空から出発し、ヘルシンキ・バンター国際空港で合流しました。

メンバーの一人の奥様がフィンランド人ということで、非常に内容の濃い視察スケジュールを組んで頂けました。

フィンランドの学校訪問

週末金曜日の午後遅い時間に集合したため、週末はヘルシンキの市内観光をしながら「時差ぼけ」を解消、現地の人たちの様子や風景を観る。そして翌月曜日から、学校訪問が開始されました。まずはヘルシンキ郊外のバンター市にあるバスキヴオリ高校を訪問。校長先生、インターナショナルクラブ担当の先生と５人の女子高校生が出迎えてくれました。とても流暢な英語でびっくり。中には１年間日本に交換留学で行った女子高校生もいて、話題にいとまがありませんでした。また、驚いたことに２０人のコーラスグループが私たちのために、フィンランドの有名な曲を歌ってくれました。この高校は音楽や舞踏、メディア研究、言語教育などに重点が置かれていて、卒業してからの進路も職業と直結していることが伺われました。

手作りのケーキやクッキー、そしてコーヒーを用意してくれ、校長先生はお忙しい中時間をとって待ってくださいました。日本のお・も・て・な・し・と非常に近いものを感じました。

そう、デザインの国だったと思い知ることになる学校のつくり。

各教室の入口がこれ!

教室の中も木の温もりを感じる机やイス

そしてこれが、教職員の部屋！

バスキヴオリ高校のコーラス部の生徒たちが素晴らしい歌を聞かせてくださいました。ヨーロッパ遠征もする実力派です。

留学生も混じって英語の授業をしているところです

生徒が自ら私たちに声をかけてくれ、ハキハキと英語で自分の考えを述べ、質問に答える姿勢には感心しました。

校長先生に「どうしてこんな自信を持って話せる生徒が育ったのですか？」とお聞きしました。

答えは、『まず、国のオープンな姿勢を教育に反映させていること。そして、自分の意見はちゃんと言えるようにプレゼンテーションのトレーニングなどもしっかり練習させてきました。』とのことでした。

生徒にも直接聞いてみました。

『私たちは、中学生の時に基本的な勉強をしっかりやってきましたが、それ以上に「これから自分は何をして生きていきたいのか」をじっくり考えることも出来ました。』というのです。

中学で、ですよ！　驚きました。

国の教育システムがほぼ全国均等に同じレベルで行き渡たっていて、どのような環境、境遇にいる生徒でも、子どもに必要な教育の機会が保証されているとのことです。それは、その後訪問した北極圏に位置するロバニエミ市の「ホスピタルスクール」でも同じでした。病院の付属学校であるホスピタルスクールでは、身障児の生徒を対象にした教育が実施されていました。

教員のレベルの高さも世界トップレベル。教員は国民から尊敬されている。教育カリキュラムも自分で考え、始業も就業も教員の采配で決められる。先生は、部活動や生活指導など雑多な事で授業以外の時間、週末などに拘束されず、授業に専念できる。日本の先生事情とは仕組みがかなり違うことを痛感させられました。

翌日１７日火曜日は、まずラップランド大学付属の講師養成学校(Teacher Training School of Lapland University)を訪問しました。これから先生になる大学の学生たちが、エキスパートの先生の指導のもと、実際の小学生たちに専門教科を教えていました。クラスはほとんどが１５人以下の少人数で指導していました。

本物の工具がきれいに整頓されています。技術家庭の授業の様子です。

生徒たちは、授業が終われば家に帰る。塾はなし。毎晩家族団らん、食事も家族全員一緒が当たり前の生活です。塾はありませんが、自分の興味が持てる習いものは、自由に習いに行くことはできるようです。

どの教室も鍵がかかっていて、入る前も入室後もきちんとロックされている。これなら、池田小学校のような事件はありませんね。 教室には必ず手を洗う場所があり、ランチ前の授業の後は必ず手を洗ってからカフェテリアに行きます。

私たちも、授業を見せていただいた上にランチまでごちそうになりました。カフェテリアスタイルで健康的な食事です。

そして、さすがキシリトールの国。給食が終わったら、必ずキシリトールキャンディーを食べます。

午後はロバニエミ郊外にあるオウナスヨキ中学校 （Ounasjoki Comprehensive School）を訪問しました。校長先生から学校紹介のプレゼン、そして英語の授業を見学させていただきました。

今回の視察旅行で、小学校、中学校、高校と数校みせていただきました。日本から訪問した私たち英会話スクールのオーナー皆さんの感想は、「英語の授業自体、特に新しいものではない。むしろ、自分たちの教室の生徒の方がレベルの高い事をしているし、講師のレッスン指導もいい！」というもの。

なのに、フィンランドの子どもたちは確実に英語を話せるようになっている。

違いは何でしょう？国の教育に対するオープンさでしょうか？

フィンランドの教育関係者は次のように言っています。

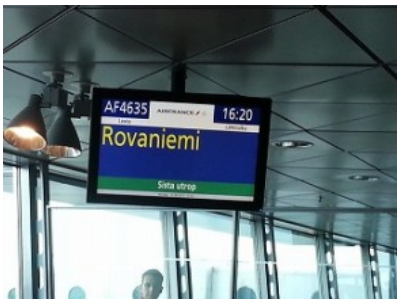
「私たちは、540 万人の国民。国を一歩出たらフィンランド語を話す人には出会わない。だから、私たちが相手に分かる言葉を話せるようにならないとね。」

これは、日本にも言える事ですね。

フィンランドでは、英語のＴＶ番組は英語のまま流されて吹き替えはしないそうです。日本もそうなると、一般家庭での英語に対する意識も変わってくるのでは、と考えました。

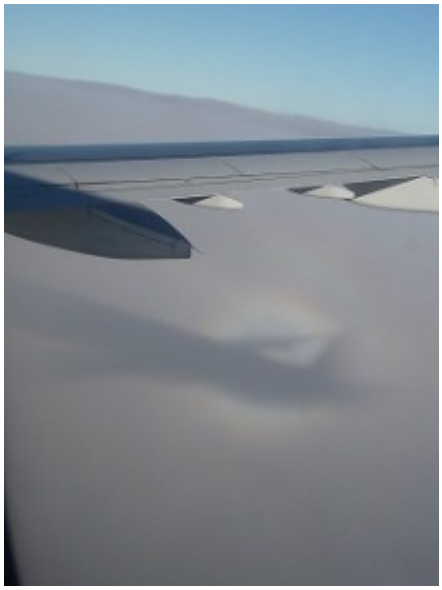
サンタクロースのいるロヴァニエミへ

私たちの教室にもサンタクロースに会いたくて英語を学んでいる子どもたちがいます。そんな子どもの事を思いながら北極圏へ飛びました



森と湖の大地

ブロッケン現象、雲の中に飛行機が映りました



出迎えてくれたのはサンタのバス！

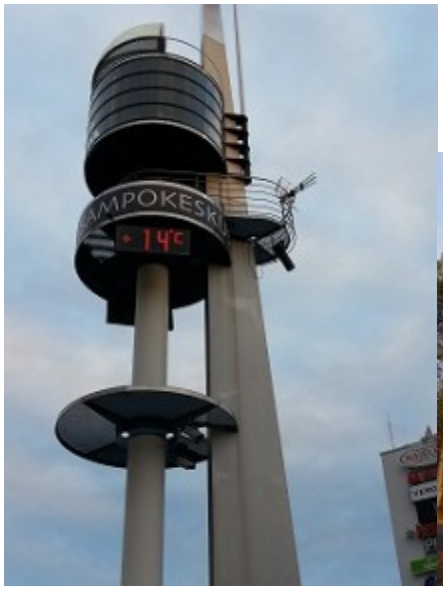
サンタ村のコテージに宿泊しました。快適です

各コテージにサウナがついていますよ

ちょうどサンタ村の中を北極圏との境界線が通っています

夕暮れのロバニエミの町は素敵なブルー

気温は 14 度、白樺の紅葉が始まったところでした



晴れていたので、オーロラが見える可能性が高いと言われたのですが、夜になって雲が覆って見えませんでした
見えたらこんな感じでしょうか・・・

Lapland のアルクティクム博物館には、すばらしい展示物がたくさんありじっくり観たかったのですが走り走りでした。

オーロラの原理も学べます

北極圏の氷は年々減少しています。
それにつれて野生動物も居場所がなくなりつつあり、さまざまな問題が起こっていることもたくさんの写真や映像、資料で学べますまた、原住民の生活を知るのも面白いです

こちらは、紫外線をつかってエネルギーを起こす装置

最後に、本物のサンタさんからみなさんへのメッセージをお伝えします。
『クリスマスには日本に行くから、みんな元気でいい子にしていてくれよ』とのことです
フィンランドに行きたい人は声をかけてくださいね。
何かアドバイスできるかもしれません。
ホッホッホー！！

私たちを快く迎えてくださった各学校の皆さまは元より、このツアーをオーガナイズした上に献身的に案内役までしてくださった松本先生ご夫妻には心から感謝申し上げます。

早藤和代

フィンランド研修報告書

まず初めに、皆々様に感謝申し上げます。

この度のフィンランド旅行において、松本先生夫妻には隅々までご配慮、ご尽力頂き安心して有意義な行程を終えることができました。また、同行の諸先生方にも良くして頂き、楽しい旅行ができました。マーリット先生からは、フィンランドのことについてその都度日本語で丁寧に説明して頂き、即座に理解することができて有り難かったです。

今回小中高の３校と病院のスクールを訪問し、フィンランドの学校のシステムや各校についての説明を受け、実際の英語の授業も沢山観ることができ、日本の学校システムとの違いを知ることができました。それが大きな収穫でした。日本とフィンランドの歴史や風土、考えの違い等が背景にあり，一概に良し悪しは言えませんが、次のことなどは見習うべき点ではないでしょうか。

1. 少人数のクラス（バンクーバーやシカゴでもクラスを見ましたが，フィンランドではさらに少なかったので驚きです）
2. 落ちこぼれ生徒をつくらない。
3. 英語を小学校３年生から学び、全ての大人がしゃべれる。
4. 先生の高い地位：威厳を持って子供達に接している。
5. 塾にすべて頼らず、学校の宿題がたくさん出るので，一生懸命勉強しなければならない。
6. テストや受験のために勉強するのではなく、どうやって生きて行くかを学ぶために学校へ行く。
7. 給食後のキリシリトール（日本でも歯磨きをしている学校もある）

学校をあげて歓迎して頂き、コーラスを披露してもらったり、沢山のクラスを見学し丁寧に説明をして頂き、給食を戴いたり、学校の校風や子供達の様子が深くわかりました。

また、フィンランドは物価や税金が高いのが旅行者には痛いところだと思いましたが，街並（オシャレできれいな街)、自然、人々の温かさなどに触れることができて、幸せな気持ちになりました。食べ物もおいしかったです。

ノーベル学院　下山幸子